

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホクシン カザワリイカク 学校法人 金沢医科大学								
フリガナ大学の名称	カザワリイカク タクダクイン 金沢医科大学大学院 (Kanazawa Medical University Graduate School)								
大学本部の位置	石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地								
大学の目的	金沢医科大学大学院は、教育基本法並びに学校教育法に基づき、医学及び看護学に関する学術の理論および応用を教授研究し、その深奥をきわめ、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	本学に看護学研究科を設置し、高度で専門的な知識と能力を有する高度看護実践者及び教育者・研究者の育成を図り、看護の質の向上及び看護学の学際的发展に寄与することを目的とし、看護学部を基盤とした看護学専攻修士課程を設置する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	[基礎となる学部] 看護学部看護学科 14条特例の実施
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing] 看護学専攻 [Master Course of Nursing] 計	2年	6人	—	12人	修士(看護学)	平成27年4月 第1年次	石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
	看護学研究科	講義	演習	実験・実習	計	30単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	看護学研究科看護学専攻 (修士課程)	11人 (11)	5人 (5)	2人 (2)	0人 (0)	18人 (18)	0人 (0)	37人 (37)
		計	11人 (11)	5人 (5)	2人 (2)	0人 (0)	18人 (18)	0人 (0)	37人 (37)
	既設分	医学研究科生命医科学専攻 (博士課程)	73人 (73)	15人 (15)	4人 (4)	0人 (0)	92人 (92)	0人 (0)	9人 (9)
		計	73人 (73)	15人 (15)	4人 (4)	0人 (0)	92人 (92)	0人 (0)	9人 (9)
合計		81人 (81)	20人 (20)	6人 (6)	0人 (0)	107人 (107)	0人 (0)	46人 (46)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		230人 (230)		78人 (78)		308人 (308)		
	技術職員		1,251人 (1,251)		433人 (433)		1,684人 (1,684)		
	図書館専門職員		5人 (5)		1人 (1)		6人 (6)		
	その他の職員		51人 (51)		98人 (98)		149人 (149)		
計		1,537人 (1,537)		610人 (610)		2,147人 (2,147)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校舎敷地	63,966.98㎡	0.00㎡	0.00㎡	63,966.98㎡					
	運動場用地	17,038.04㎡	0.00㎡	0.00㎡	17,038.04㎡					
	小 計	81,005.02㎡	0.00㎡	0.00㎡	81,005.02㎡					
	そ の 他	86,886.50㎡	0.00㎡	0.00㎡	86,886.50㎡					
合 計	167,891.52㎡	0.00㎡	0.00㎡	167,891.52㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		61,848.01㎡ (61,848.01㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	61,848.01㎡ (61,848.01㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	20室	54室	17室	1室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		看護学研究科		18 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	看護学部との共用分 その他大学全体 での共用分 205,079冊		
	看護学研究科	4,703 [522] (4,583 [502])	70 [10] (70 [10])	940 [675] (940 [675])	192 (181)	4,648 (4,548)	252 (252)			
	計	4,703 [522] (4,583 [502])	70 [10] (70 [10])	940 [675] (940 [675])	192 (181)	4,648 (4,548)	252 (252)			
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数					
		2,143.42㎡		189	138,639					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		2,668.39㎡		テニスコート						
経 費 積 累 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費は大学 全体 図書費には電子 ジャーナル・データベース の整備費（運用コスト 含む）を含む
		教員1人当り研究費等		450千円	450千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
		共同研究費等		26,500千円	26,500千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
		図書購入費	2,900千円	2,000千円	1,600千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
	設備購入費	7,400千円	3,600千円	2,000千円	-千円	-千円	-千円	-千円		
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
本学卒	700千円	500千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
他学卒	700千円	500千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	金沢医科大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	医学部 医学科	6	110	-	640	学士（医学）	0.98	昭和47 年度	石川県河北郡内灘町 宇大学1丁目1番地	
	看護学部 看護学科	4	70	3年次 10	300	学士（看護学）	1.12	平成19 年度	同上	
大学院医学研究科 生命医学専攻	4	35	-	140	博士（医学）	0.70	昭和57 年度	同上		
附属施設の概要		<p>名 称：金沢医科大学病院 目的：公衆保健に寄与するため患者の診療を行ない併せて医学の教育・研究 を行なうことを目的とする。 所在地：石川県河北郡内灘町宇大学1丁目1番地 設置年月：昭和49年9月 規模等：建物 111,165㎡ 病院本館：地上13階地下1階、病院別館：地上8階地下1階 病院新館：地上12階地下1階、第二新館：地上2階地下1階 診療科：28科（医療法上） 許可病床数：835床</p> <p>名 称：総合医学研究所 目的：臨床に直結した研究推進及び研究支援 所在地：石川県河北郡内灘町宇大学1丁目1番地 設置年月：平成元年4月 規模等：建物 5,804㎡</p>								

学校法人金沢医科大学 設置認可等に関する組織の移行表

平成26年度

入学 編入学 収容
定員 定員 定員

平成27年度

入学 編入学 収容 変更の事由
定員 定員 定員

金沢医科大学		入学 定員	編入学 定員	収容 定員
医学部	医学科	110	-	660
			3年次	
看護学部	看護学科	70	10	300
計		180	10	960
金沢医科大学大学院		入学 定員	編入学 定員	収容 定員
医学研究科	生命医科学専攻(D)	35	-	140
計		35	-	140

→

→

金沢医科大学		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
医学部	医学科	110	-	660	
			3年次		
看護学部	看護学科	70	10	300	
計		180	10	960	
金沢医科大学大学院		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
医学研究科	生命医科学専攻(D)	35	-	140	
看護学研究科	看護学専攻(M)	<u>6</u>	-	<u>12</u>	研究科の設置 (認可申請)
計		<u>41</u>	-	<u>152</u>	

教育課程等の概要															
(看護学研究科看護学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護研究概論	1前	2			○			4						
	看護研究方法論	1後		2		○			2					兼1	オムニバス
	看護教育論	1前		2		○			2						オムニバス
	看護理論	1前		2		○								兼1	
	看護管理論	1前		2		○			1					兼3	オムニバス・一部共同
	コンサルテーション論	1前		2		○			3					兼1	オムニバス
	看護・医療倫理	1後		2		○								兼2	オムニバス
	医療情報学	1後		2		○			1					兼2	オムニバス・一部共同
	フィジカルアセスメント	1後		2			○		1					兼6	オムニバス
	臨床薬理学	1後		2		○								兼4	オムニバス
	病態生理学	1前		2		○								兼8	オムニバス
	感染管理学	1後		2		○			1					兼2	オムニバス・一部共同
	小計 (12科目)	—		2	22			—	8						兼26
看護教育学領域	看護教育学特論A (看護教育課程論)	1前		2		○			2						
	看護教育学特論B (看護教育方法・評価論)	1前		2		○			2						
	看護教育学特論C (看護教育史論)	1後		2		○			2					兼1	オムニバス
	看護技術教育方法論	1後		2		○			2						
	看護教育学演習	2前		4			○		3						
	小計 (5科目)	—		12			—	3							兼1
地域生活支援看護学領域	地域看護診断学	1前		2		○			2	1					オムニバス・一部共同
	地域医療支援論	1前		2		○			3						オムニバス
	地域ケアシステム論	2前		2		○				1				兼2	オムニバス
	地域健康支援看護学特論	1後		2		○			2	1				兼1	オムニバス
	地域健康支援看護学演習	2前		4			○		2	2					
	生活支援看護学特論	1後		2		○			3	1					オムニバス
	生活支援看護学演習	2前		4			○		3	1					
	高齢者支援看護学特論	1後		2		○			1	1					オムニバス
	高齢者支援看護学演習	2前		4			○		1	1					
	創傷・スキンケア看護学特論	1後		2		○			1	1					オムニバス・一部共同
	創傷・スキンケア看護学演習	2前		4			○		1	1					オムニバス
	精神保健支援看護学特論	1後		2		○			1		1				オムニバス
	精神保健支援看護学演習	2前		4			○		1		2				
小計 (13科目)	—		36			—	8	5	2					兼3	
高度実践看護学領域	精神看護学特論A (歴史・法制度論)	1前		2		○			1		1				オムニバス・一部共同
	精神看護学特論B (精神看護理論)	1後		2		○			1		2			兼1	オムニバス
	リエゾン精神看護論	2前		2		○			1					兼1	オムニバス
	うつ病看護論	2前		2		○			1		2				オムニバス・一部共同
	精神看護学治療方法論A (精神・身体状態の評価と治療)	1後		2			○		1					兼1	オムニバス・一部共同
	精神看護学治療方法論B (各種療法)	1後		2			○		1					兼1	オムニバス
	精神看護学援助技術論A (アセスメント・評価演習)	1後		2			○		1		2			兼1	オムニバス
	精神看護学援助技術論B (多様な精神看護の介入演習)	2前		2			○		1		2			兼1	オムニバス
	精神看護学実習A (役割機能・直接看護実習)	1後		4				○	1		2				
	精神看護学実習B (診断・治療実習)	2前		2				○	1		2			兼1	
	精神看護学実習C (サブスペシャリティ実習)	2通		2				○	1		2				
	精神看護学実習D (相談調整実習)	2通		2				○	1		2			兼1	
小計 (12科目)	—		26			—	1		2					兼4	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 高度実践看護学領域	クリティカルケア看護学特論A (危機とストレス管理)	1前		2		○									兼1	オムニバス
	クリティカルケア看護学特論B (代謝病態生理)	1前		2		○			1	1					兼2	オムニバス
	クリティカルケア看護学特論C (急性・重症患者管理論)	1後		2		○				1					兼3	オムニバス
	クリティカルケア看護学特論D (援助の人間関係論)	1後		2		○			1							
	クリティカルケア看護学演習A (アセスメント・援助論)	1後		2			○		1							
	クリティカルケア看護学演習B (倫理調整)	1後		2			○								兼1	オムニバス
	クリティカルケア看護学演習C (救急看護論)	1後		2			○			1					兼1	オムニバス
	クリティカルケア看護学実習A (急性・重症患者包括的看護実践)	1後		3				○	1						兼1	
	クリティカルケア看護学実習B (チーム医療実践)	2前		3				○	1						兼1	
	クリティカルケア看護学実習C (組織包括的看護実践)	2後		4				○	1						兼1	
	小計 (10科目)		—		24			—	1	1					兼5	
研究科目	特別研究	1～2通		8			○		11	5	1					
	課題研究	1後・2通		2			○									
	小計 (2科目)			10			—	11	5	1						
合計 (54科目)			—	2	130		—	11	5	2				兼37		
学位又は称号		修士 (看護学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (看護学関係)									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>「看護教育学領域」「地域生活支援看護学領域」は、共通科目8単位以上(看護研究概論、看護研究方法論は必修)、専門科目14単位以上、研究科目の特別研究8単位、合計30単位以上を修得し、かつ必要な指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、修得する専門科目は、履修する専門科目について、主とする分野から10単位以上(演習科目を含むこと)と、他の分野から4単位以上修得すること。ただし、実習科目および課題研究の選択は認めない。</p> <p>「高度実践看護学領域」は、共通科目14単位以上(看護教育論、看護理論、看護管理論、コンサルテーション論、看護・医療倫理から6単位以上、看護研究概論、フィジカルアセスメント、臨床薬理学、病態生理学8単位必修)、各専門看護領域24単位、研究科目の課題研究2単位、合計40単位以上を修得し、かつ必要な指導を受けた上で、課題研究論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、特別研究の選択は認めない。</p>							1 学年の学期区分		2 学期							
							1 学期の授業期間		15 週							
							1 時限の授業時間		90 分							

別記様式第2号 (その2の1)

教育課程等の概要																
(看護学部看護学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人間学領域	医療接遇講座	1前	1			○									兼1	
	発達心理学	1前	1			○									兼1	
	臨床心理学	1後	1			○									兼1	
	医療と倫理	2前	1			○									兼1	
	カウンセリング・マインド技法	2前	1				○								兼1	
	表現学	1前		1		○									兼1	
	文学	1前		1		○									兼1	
	教育学	1後		1		○									兼1	
	老年学	1後		1		○									兼1	
	2 社会	保健医療福祉行政論	2前	2			○									兼3
		保健医療福祉制度論	2後	1			○			1						オムニバス
		医療と法律	2後	1			○									兼1
		家族社会学	2前		1		○									兼1
		医療経済学	2後		1		○			1						兼1
	日本国憲法	2後		2		○									兼1	
	3 情報	情報科学Ⅰ (情報処理の基本)	1前	1				○								兼1
		情報科学Ⅱ (プレゼンテーション技法)	1後	1				○								兼1
		疫学統計	2前	1				○		1						
		応用疫学統計	2後	1				○		1						
	4 国際	英語Ⅰ (コミュニケーション英語)	1通	2				○								兼4
		英語Ⅱ (看護英語基礎)	2前	1				○								兼1
		英語Ⅲ (看護英語講読)	2後	1				○								兼1
		言語演習 (中国語)	2後		1			○								兼1
		言語演習 (韓国語)	2後		1			○								兼1
	言語演習 (ドイツ語)	2後		1				○							兼1	
	医科学領域	生物学	1前	1			○									兼2
		化学	1前		1		○									兼1
		物理学	1後		1		○									兼1
人体の形態 (解剖学)		1前	2			○									兼3	
人体の機能 (生理学)		1前	2			○									兼2	
生化学		1前	1			○									兼1	
病原微生物学		1前	1			○									兼3	
病理・病態学		1前	1			○			1						兼3	
健康と運動Ⅰ (理論)		1後	1			○									兼1	
健康と運動Ⅱ (実践)		1後	1			○		○							兼1	
疾病・治療論Ⅰ (循環器系)		1後	1		1		○		2						兼4	
疾病・治療論Ⅱ (内分泌・呼吸器系)		1後	1				○		2						兼3	
疾病・治療論Ⅲ (消化器・免疫系)		1後	1				○		1						兼3	
疾病・治療論Ⅳ (感染症・腎・泌尿器系)		1後	1				○		1						兼2	
疾病・治療論Ⅴ (外科系諸科)		1後	1				○								兼8	
疾病・治療論Ⅵ (脳・神経系)		2前	1				○		1						兼2	
疾病・治療論Ⅶ (感覚器系)		2前	1				○		1						兼6	
疾病・治療論Ⅷ (精神神経系)		2前	1				○								兼5	
疾病・治療論Ⅸ (産科婦人科系)		2前	1				○		1		1				兼5	
疾病・治療論Ⅹ (小児科系)		2前	1				○								兼3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
医科学領域	臨床栄養学	1後	1			○									兼1		
	病態学演習（臨床検査）	1後	1			○			1						兼2	オムニバス	
	治療論（臨床薬理学）	1後	1			○			1						兼2	オムニバス	
	疫学	2後	2			○			1								
	救急法	4前	1			○									兼4		
	小計（50科目）		42	14					6	1	1						
6 看護学Ⅰ（基本）	看護学原論Ⅰ	1前	1			○			1	2							
	看護学原論Ⅱ	1後	1			○			1	2	1	2			兼3	オムニバス	
	安全と看護	1後	1			○				1							
	精神保健看護学概論	1後	2			○			1		1	1					
	成人看護学概論	2前	1			○				1							
	成人臨床看護総論	2前	1			○			1							オムニバス	
	老年看護学概論	2前	2			○			1	1		1					
	小児看護学概論	2前	2			○				1							
	母性看護学概論	2前	2			○			1								
	在宅看護学概論	2前	2			○			1		1	1				オムニバス	
	公衆衛生看護学概論	2後	2			○			1	1	1					オムニバス	
		小計（11科目）		17						7	5	4	5				
	7 看護学Ⅱ（方法論）	基礎看護技術論Ⅰ（共通技術）	1前	1					○	1	2	1	2				
		基礎看護技術論Ⅱ（日常生活援助技術）	1前	1					○	1	2	1	2				
基礎看護技術論Ⅲ（日常生活援助技術）		1後	1					○	1	2	1	2					
基礎看護技術論Ⅳ（フィジカルアセスメント）		1後	1					○	1	2	1	2					
基礎看護技術論Ⅴ（診療補助技術）		2前	1					○	1	2	1	2					
基礎看護技術論Ⅵ（看護過程展開技術）		2前	1					○	1	2	1	2					
精神看護学方法論		2後	2			○			1		1	1					
成人看護学方法論Ⅰ（成人看護援助論）		2前	2			○			1	1	1	2					
成人看護学方法論Ⅱ（成人看護援助論）		2後	2			○			1	1	1	2					
成人看護学方法論Ⅲ（看護過程の展開）		2後	1				○		1	1	1	2					
成人看護学方法論Ⅳ（成人看護技術演習）		3前	1				○		1	1	1	2					
老年看護学方法論Ⅰ（生活援助技術）		2後	2				○		1	1		1			兼2		
老年看護学方法論Ⅱ（看護過程の展開）		3前	1				○		1	1		1					
小児看護学方法論Ⅰ（小児看護援助論）		2後	1			○					1						
小児看護学方法論Ⅱ（小児看護援助演習）		3前	1				○				1	1	1				
母性看護学方法論Ⅰ（母性看護援助論）		2後	1			○			1		2	1					
母性看護学方法論Ⅱ（母性看護援助演習）		3前	1				○		1		1	1					
在宅看護学方法論Ⅰ（援助技術）	2後	1			○			1		1	1						
在宅看護学方法論Ⅱ（援助方法）	3前	1				○		1		1	1						
看護研究の基本	3通	1			○			3									
	小計（20科目）		24						5	2	6	10					
8 看護学Ⅲ（実践）	基礎看護学実習Ⅰ（療養環境実習）	1前	1					○	1	2	1	2	1				
	基礎看護学実習Ⅱ（看護過程実習）	2後	2					○	1	2	1	2	1				
	精神看護学実習	3通	2					○	1		2						
	成人看護学実習Ⅰ（周手術期看護実習）	3通	2					○	1		1	2					
	成人看護学実習Ⅱ（慢性期看護実習）	3通	2					○		1		2					
	成人看護学実習Ⅲ（複合的看護実習）	3通	2					○	1	1	1	2					
	老年看護学実習Ⅰ（施設で生活する高齢者の看護）	3通	2					○	1	1		1					
	老年看護学実習Ⅱ（健康障害を持つ高齢者の看護）	3通	2					○	1	1		1					
	小児看護学実習	3通	2					○			1	1	1				
	母性看護学実習	3通	2					○	1		2	2	1				
	在宅看護学実習	3通	2					○	1		1	2					
統合看護実習	4前	2					○	5	4	4	8						
	小計（12科目）		23						6	4	4	10	2				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 9看護学Ⅳ(発展)	リスクマネジメント	4前	1			○									兼6	
	看護と倫理	4前	1			○			2						兼1	オムニバス
	看護管理	4前	1			○			1	2					兼2	オムニバス
	看護教育	4前	1			○			1							
	看護研究	4通	4				○		14	7	8	9				
	災害看護論	4前		1			○					1			兼1	
	国際看護	4前		1			○				1					
	緩和ケア論	4後		1			○		1	1						
	看護政策論	4後		1			○									
	家族看護論	4後		1			○		1						兼1	
	総合看護学技術演習Ⅰ	4前		2			○		1							
	総合看護学技術演習Ⅱ	4後		1			○		1							
小計(12科目)			8	8					14	7	8	9				
保健師選択コース 公衆衛生看護学	公衆衛生看護学方法論Ⅰ(地域看護活動論)	3前		2			○			1						
	公衆衛生看護学方法論Ⅱ(対象別地域看護活動論)	3通		2			○			1						
	公衆衛生看護学方法論Ⅲ(学校・産業・災害看護)	4前		2			○		1	2						
	公衆衛生看護学方法論Ⅳ(保健指導演習)	4前		2				○	1	2						
	公衆衛生看護学方法論Ⅴ(地域看護活動演習)	4前		1				○	1	2						
	公衆衛生看護学管理論	4前		1			○		1	2						
	公衆衛生看護学実習	4通		3					1	2		1				
小計(7科目)			13					1	2		1					
助産師選択コース 助産学	助産学概論	3前		2			○		1							
	助産学方法論Ⅰ(セクシュアリティ)	3前		1			○				1					
	助産学方法論Ⅱ(産科学)	3通		1			○		1	1						オムニバス
	助産学方法論Ⅲ(助産診断)	3通		1			○				1					
	助産学方法論Ⅳ(健康教育演習)	4前		1				○	1		2	1				
	助産学方法論Ⅴ(助産過程演習)	4前		1				○	1		2	1				
	助産学方法論Ⅵ(助産技術演習)	4前		2				○	1		2	1				
	助産管理	4前		2			○		1							
	助産実習	4通		9					1		2	1	1			
	地域母子保健実習	4通		1					1		2	1	1			
	助産所実習	4通		1					1		2	1	1			
小計(11科目)			24					1	1	2	1	1				
合計(123科目)		—	114	59					14	7	8	9	2			
学位又は称号		学士(看護学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
卒業要件(卒業に必要な単位数):必修114単位、選択10単位、合計124単位以上 保健師選択コースの課程修了に必要な最低取得単位数:必修127単位、選択10単位、合計137単位以上 助産師選択コースの課程修了に必要な最低取得単位数:必修136単位、選択10単位、合計146単位以上 保健師国家試験の受験資格を得ようとする者には保健師選択コースの全科目が必修科目となる。 助産師国家試験の受験資格を得ようとする者には助産師選択コースの全科目が必修科目となる。							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護研究概論	<p>【概要】 看護研究の原理、看護研究の種類、看護研究プロセス(問題意識の明確化 (Evidence-Based Practice: EBP、PICO、PECO)、文献クリティーク、研究目的・意義の明確化、研究方法と研究枠組みの明確化、データ収集方法と分析方法、考察)と発表方法について学修する。また、看護研究における倫理的配慮について学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(①: 滝内 隆子/4回) 看護研究の意義と活用、種類、プロセスについて学習する。さらに、看護研究の研究成果の公表方法について学習する。</p> <p>(⑧: 前田 修子/4回) 文献検討の方法とクリティークの方法について学習する。さらに、学生自身が文献検討とクリティークに取り組み、その結果を学生プレゼンテーションにて発表し、学生・教員間で討議する。</p> <p>(②: 坂井 恵子/3回) 研究目的と意義の明確化、研究方法、研究枠組みについて学習する。</p> <p>(⑤: 平松 知子/4回) 質的、量的研究におけるデータ収集と分析方法、研究結果の学術的検討、研究計画書の作成と論文作成について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	看護研究方法論	<p>【概要】 看護学における代表的研究手法として、質的記述的研究、エスノグラフィ、グラウンデッドセオリー、アクションリサーチ、現象学を学び、看護学として必要な対象理解につなげ、事例や現象に沿った研究方法を用い、有効な看護上での介入方法を修得する。さらに、量的研究手法の概略、生物統計学の理論と応用の基本、解析ソフトウェアを用いて基本的なデータ解析を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(①: 滝内 隆子/2回) 質的研究における現象の捉え方・対象理解について学習する。また、量的研究における種類と統計学と看護研究の関係について学習する。</p> <p>(⑤: 平松 知子/6回) 質的記述的研究、エスノグラフィ、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、アクションリサーチ、現象学におけるデータ収集・分析方法について学ぶ。さらに、質的研究論文のクリティークについても学ぶ。</p> <p>(24: 本多隆文/7回) 量的研究手法の概略、生物統計学の理論と応用の基本、解析ソフトウェアを用いて基本的なデータ解析を学習する。</p>	オムニバス方式
	看護教育論	<p>【概要】 看護教育制度、看護の質保証と看護教育学を基礎とし、看護基礎教育に関する教育課程・内容・方法・評価、教育計画について学修する。また、看護継続教育については、看護の質を保証するために必要な看護実践能力の向上を促進するための看護職への働きかけ、環境づくり、併せて教育内容・方法・評価、教育システムの開発に必要な知識・技術を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(①: 滝内 隆子/8回) 看護継続教育の対象と学習ニーズ、看護継続教育としての施設内・外教育、看護継続教育における教育内容・方法・評価について学ぶ。</p> <p>(②: 坂井 恵子/7回) 看護教育制度、看護基礎教育の変遷、看護教育課程の構造と構成、看護学教育評価について学ぶ。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護理論	<p>【概要】 看護理論のもつ学問的、実践的な意義について学び、その基盤にたつて、看護理論の構築、守備範囲、評価観点について理解する。また、看護理論に影響をあたえる周辺諸理論を体系的に理解し看護理論のもつ理論的、哲学的な基盤がわかり、その上で、諸々の看護理論の内容的構造及び特徴、主張点を理解する。看護理論の看護実践への活用に向けて、主要な看護理論家の看護モデルについて、その哲学的基盤、概念を基に看護の実践/教育/研究への活用について理解する。また、広範囲理論であるロイ適応理論により、これら理論の実践への活用をより具体的に理解する。また、自ら関心ある領域において、その看護理論及び諸理論で適用できるものを選択し、その妥当性を考察したうえで、実践/研究/教育への具体的な活用について検討する。</p>	
	看護管理論	<p>【概要】 医療の質、看護の質保証の理解を基礎とし、看護管理に関する諸理論(組織論、リーダーシップ論、看護サービスマネジメント論等)の学修と、併せて保健・医療・福祉に携わる人々や看護管理者との間の調整や協働などの専門看護師の役割を学修する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(②：坂井 恵子/4回) 専門職業人とキャリア開発、マネジメント理論について学ぶ。</p> <p>(35：丸岡 直子/6回) 看護マネジメントの考え方と歴史の変遷、組織論、リーダーシップ論について学習する。</p> <p>(42：才田 悦子/2回) 看護サービスの提供と看護倫理について、実際例を示しながら学習する。</p> <p>(43：中村真寿美/2回) 人材の育成と活用について学習する。</p> <p>(②：坂井 恵子・42：才田 悦子・43：中村真寿美/1回) (共同) 専門看護師、看護管理者、看護教育者、看護研究者らに対する役割と課題について討議、検討する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	コンサルテーション論	<p>【概要】 医療に関する諸問題の解決に必要な実践的コンサルテーションの知識、技術を修得する。臨床での多職種連携や、有効な社会資源の活用など、高度な看護実践の手段としてのコンサルテーション業務を実際の事例から検証し、その知識と技術を修得する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(③：長谷川 雅美/10回) コンサルテーションの捉え方、対象の理解を踏まえ、コンサルテーション理論について学ぶ。さらに、グループコンサルテーション、臨床でのコンサルテーション、メンタル看護相談外来でのコンサルテーションについて学ぶ。</p> <p>(④：中井 有里/1回) 精神科病棟におけるコンサルテーションについて学ぶ。</p> <p>(⑨：森河 裕子/2回) 課題適合型コンサルテーション、管理者中心のコンサルテーションについて学ぶ。</p> <p>(⑧：前田 修子/2回) プロセス適応型コンサルテーション、組織へのコンサルテーションについて学ぶ。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護・医療倫理	<p>【概要】 看護倫理の意義とその必要性について哲学的、理論的、社会的な見地から考察でき、「倫理」の概念、本質、原則、倫理的なジレンマについて理解する。同時に、生命倫理の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地等についても理解する。また、医療および看護場面における倫理的ジレンマについて多様な観点から考察し、看護実践に活用出来るモチベーションを高めると共に、その専門領域に関する具体的な倫理的ジレンマについて、倫理的な調整等、解決策を含めた考察を深める。さらに看護倫理に対する研究的な課題とアプローチおよび看護倫理に関する組織的な取り組みについても理解する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(32：大島 弓子/12回) 看護倫理と倫理綱領について学修する。さらに、医療及び看護現場における倫理の必要性、倫理的ジレンマとその対応、医療者間における倫理的調整について学修する。</p> <p>(28：安田 幸雄/3回) 倫理の概念、倫理の原則、倫理と法律との関係、倫理的なジレンマ、生命倫理、医療倫理について学修する。</p>	オムニバス方式
	医療情報学	<p>【概要】 医療情報の利用方法、活用方法、実例、応用例を学び、自らが医療情報を作り出し、活用することや、取得した医療情報を価値のある情報へと変換し、「自ら、あるいは他者の新たな意志決定のための支援」が可能になることを学修する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(②：坂井 恵子/1回) 学生臨地実習における患者情報の取り扱いと法的根拠、情報倫理、情報管理について学ぶ。</p> <p>(31：島崎 猛夫/7回) 医療情報学とは、より良い意志決定とは、情報と確率、臨床場面での意志決定、情報の解析方法、情報の選択基準と信頼性、インターネットを利用したデータベースの利用方法、情報の要約化などについて学ぶ。</p> <p>(30：黒田 尚弘/5回) 情報倫理、コンピューターシステムの理解、医療現場におけるコンピューターシステム、プレゼンテーションソフトの利用、各種テクニックなどについて学ぶ。</p> <p>(②：坂井 恵子・31：島崎 猛夫・30：黒田尚弘/2回) (共同) 高度看護職者・看護教育者としての情報管理のうえでの課題について、プレゼンテーションし、対応策を討論する。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	フィジカルアセスメント	<p>【概要】 循環器、呼吸器、代謝、消化器、中枢神経疾患の病態を解析して有効な看護を行うために必要な診察、検査などのフィジカルアセスメント技術を、シュミレーションセンターにて学修する。フィジカルアセスメント技術により、得られたデータに基づき病期、重症度判定等の病状を理解し、身体状況を正確に測定し判断できる能力を修得する。さらに、救急外来を学習の場として緊急場面で医師と連携して必要な情報を収集しながら、必要なフィジカルアセスメントを実践できるように学修する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(21：岩井 邦充/5回)：循環器疾患、呼吸器疾患 高血圧症、虚血性心疾患などの症例を中心にして、医療面接技法、診察の基本手技やバイタルサインの診察の意義と限界を科学的に理解する。さらに心電図等の生理機能検査、画像診断について学び、内科的インターベンション治療の適応について修得する。 肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患を中心にして、呼吸器疾患の診断法を学修する。呼吸状態の観察法、肺野の聴診、胸郭以外の部位の重要所見等の基本的診察法、さらには呼吸機能検査、画像診断等を病態生理と関連させて修得する。</p> <p>(24：北出 優華子/1回)：内科的治療におけるフィジカルアセスメントにおいて重要となるフィジカルアセスメントを学ぶ。</p> <p>(25：内田 真紀/2回)：病歴聴取と身体診察の基礎、外科的治療におけるフィジカルアセスメントにおいて重要となるフィジカルアセスメントを学ぶ。</p> <p>(26：川崎 康弘/2回)：臨床判断 代謝性疾患、消化器疾患の代表疾患に関する診断基準、治療や専門的看護を行う上で必要なアセスメント・看護的処置について学修する。</p> <p>(27：和藤 幸弘/2回)：救急疾患 救急患者の診察にあたってはバイタルサインの判定と緊急処置の要否判断、モニター、重症度判定を行えるようにすることが第一歩である。主にシュミレーションセンターを中心に、呼吸、循環、意識状態等から心肺蘇生を要するか否かを診断し、蘇生処置に必要な器材を適切に準備できるよう学修する。</p> <p>(46：石丸 章宏/1回)：集中治療患者の診察方法の特徴 学修した救急疾患の代表例を挙げ、集中治療患者の的確な処置を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	臨床薬理学	<p>【概要】 成人のみならず、小児および高齢者の薬物動態や薬物代謝の特徴を把握し、代表的な薬物の投与計画、薬物相互作用および有害作用について、臨床現場で利用できる実際的な知識を学修する。また、看護職者が薬物治療にかかわる際に留意すべき薬事法や薬物が引き起こす社会的な問題についても理解を深める。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(20：石橋 隆治/12回) 臨床薬理学序論、薬物動態と薬物作用、対象別薬物治療、薬理遺伝学、さまざまな薬物療法などについて学び、服薬管理の実際と注意点を議論できる。</p> <p>(22：甲野 裕之/1回) 代謝性疾患治療薬について学ぶ。</p> <p>(47：西尾 浩次/1回) 看護師に必要な薬事法の知識について学ぶ。</p> <p>(36：中川 輝昭/1回) 薬害と医療過誤について学び、過去の事例から看護職者としての課題を検討する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	病態生理学	<p>【概要】 代表的な生体機能ならびに臓器系統別の主要な身体症状・徴候に関する最新の病態生理学を学修し、専門的で高度な看護実践能力を修得するための基礎的能力を養う。さらに、臨床現場で遭遇する代表的な内科疾患事例、複合的な症候を示す事例をとおして、エビデンスに基づいた病態生理学を推論し、プレゼンテーションならびにディスカッションを行うことにより、科学的な病態解析の方法論や看護判断を修得する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(22：甲野 裕之/6回) 看護場面で遭遇しやすい主要な症候を臓器系統別に学習し、各症候の病態生理学を基にして症状に応じた治療や看護を考察する。代表的感染症の症例を提示し、種々の症候を病態生理学から考察する。プレゼンテーション、ディスカッションをとおして、科学的な病態解析の方法論の理解を深める。</p> <p>(27：山崎 松美/1回) 看護場面で遭遇しやすい自律神経・内分泌機能と病態生理学(自律神経、内分泌の異常による種々の症状についてそれぞれの原因と発生機序の考察)の理解をもとに、プレゼンテーション、ディスカッションをとおして、科学的な病態解析の方法論や看護判断の理解を深めるとともに、エビデンスに基づいた高度な看護実践能力を養う。</p> <p>(23：吉田 真寿美/1回) 看護場面で遭遇しやすい代表的循環器系疾患(虚血性心疾患、不整脈、高血圧)の理解をもとに、プレゼンテーション、ディスカッションをとおして、科学的な病態解析の方法論や看護判断の理解を深めるとともに、エビデンスに基づいた高度な看護実践能力を養う。</p> <p>(20：野田 洋子/1回) 看護場面で遭遇しやすい代表的感染症疾患(呼吸器感染症、ウイルス性肝炎、HIV感染症)の理解をもとに、プレゼンテーション、ディスカッションをとおして、科学的な病態解析の方法論や看護判断の理解を深めるとともに、エビデンスに基づいた高度な看護実践能力を養う。</p> <p>(23：前田 朝陽/1回) 看護場面で遭遇しやすい代表的呼吸器系疾患(慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、肺水腫)の理解をもとに、プレゼンテーション、ディスカッションをとおして、科学的な病態解析の方法論や看護判断の理解を深めるとともに、エビデンスに基づいた高度な看護実践能力を養う。</p> <p>(23：小島 正美/1回) 看護場面で遭遇しやすい感覚器系の症候を学習し、患者に出現した症候の背景・原因・誘因、種類、症状・状態、随伴症状、リスクの Assessment(解釈・判断)を病態生理学より明らかにする能力を高める。</p> <p>(21：岩井 邦充/2回) 看護場面で遭遇しやすい循環器系、呼吸器系の代表的疾患を対象とし、各疾患の症候を病態生理学より考察する。また、体験遭遇しやすい症状・徴候をシミュレーターにて体験する。</p> <p>(45：我妻 孝則/2回) がん患者の症例を提示し、がん患者が呈する代表的な症候を病態生理学より考察するとともに、エビデンスに基づいた高度な看護実践能力を養う。また、最新のがん治療ならびに治療によって生じる症候についても学修する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	感染管理学	<p>【概要】 感染症患者および易感染状態にある患者の特徴について理解するための概念・理論、感染対策方法（感染防止技術とチームアプローチ）について学ぶ。また、医療機関や在宅医療において感染管理を実践するうえでの課題や対処方法をディスカッションし、感染管理における高度看護専門職者の役割と専門性を考察する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑧：前田 修子/5回) 施設内や地域における感染対策方法（感染防止技術とチームアプローチ）、処置別感染予防策について学修する。さらに、感染管理システムにおける看護職の専門性を考察する。</p> <p>(25：飯沼由嗣/7回) 感染症患者および易感染状態にある患者と家族の特徴について学修する。</p> <p>(㊹：野田 洋子/2回) 感染管理システムにおける看護職の役割について学修する。</p> <p>(25：飯沼 由嗣・㊹：野田 洋子/1回) (共同) 組織的な感染管理システム（リスクマネジメント、院内教育）および感染対策地域ネットワークの構築に関する課題と対策について討論できる。</p>	オムニバス方式 ・共同(一部)
専門科目	看護教育学特論A (看護教育課程論)	<p>【概要】 我が国の看護基礎教育に関する法的根拠、看護教育課程、教育内容の歴史の変遷について学修し、現代の看護教育課程の実態と課題を学ぶ。また、看護教育課程における教育目的、目標を検討し、教育目標を達成するための考え方並びに作成プロセスに必要な基本的な知識・技術を学修する。</p> <p>(①：滝内隆子/12回) 看護教育学の概要、我が国の看護基礎教育に関する法的根拠や変遷、看護教育課程作成の考え方と作成プロセス、看護学教育組織運営について学修する。さらに、看護教育学に関する国内外の研究の動向を探る。</p> <p>(①：滝内隆子・②：坂井恵子/3回) (共同) 看護教育学研究の動向から、看護教育学・看護教育学研究に関する課題を討議する。</p>	共同 (一部)
	看護教育学特論B (看護教育方法・評価論)	<p>【概要】 看護基礎教育における教育目的、教育目標の達成、あるいは看護専門職者の教育に必要な授業(講義, 学内演習, 臨地実習)について、授業設計の必要性とその指導計画作成に必要な知識・技術を学修する。また授業に伴う教育評価を学び、評価を検討できる。</p> <p>(②：坂井 恵子/12回) 看護教育の授業展開・授業評価における理論や知識を学修し、それらをもとに指導案(講義・学内演習・臨地実習)作成プロセスを学修する。</p> <p>(①：滝内隆子・②：坂井恵子/3回) (共同) 看護教育方法、看護教育評価に関する研究の動向を探り、看護教育上の課題と対策について討論する。</p>	共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護教育学領域	看護教育学分野	
	看護教育学特論C (看護教育史論)	<p>【概要】 現在の看護師教育、助産師教育、保健師教育の諸外国及び日本における教育制度、教育課程、教育内容、教育方法の歴史の変遷について理解し、現代の看護教育の実態と課題を学ぶ。また、認定看護管理者教育、専門看護師教育を含めて看護継続教育の諸外国及び日本の歴史の変遷について理解し、現代の看護継続教育の実態と課題を学ぶ。看護教育に関する歴史的研究の動向を探る。</p> <p>(④：滝内 隆子/7回) 看護教育史を学ぶ意義、ヨーロッパ・米国・日本における看護師教育の歴史の変遷、日本の看護継続教育の歴史の変遷と研究の動向について学ぶ。</p> <p>(⑥：柳原 真知子/4回) 日本の助産師教育の歴史と諸外国との比較について学ぶ。</p> <p>(34：名原 壽子/4回) 日本と諸外国における保健師教育の歴史と課題・展望について学ぶ。また、保健師教育に関する歴史研究の動向を探る。</p>	オムニバス方式
	看護技術教育方法論	<p>【概要】 看護技術の定義、目的、構造を学び、看護基礎教育、継続教育における看護技術教育の実践に必要な知識・技術を学修する。</p> <p>(①：滝内隆子/12回) 看護学における看護技術の意味を理解した上で看護技術の定義、目的、構造を学び、看護技術教育の実践に必要な知識・技術を学修する。</p> <p>(①：滝内隆子・②：坂井恵子/3回) (共同) 看護技術教育に関する研究について考察・プレゼン・討議し、看護技術教育のあり方を検討する。</p>	
	看護教育学演習	<p>【概要】 我が国における看護基礎教育機関の教育目的・教育目標を比較・検討し、看護教育課程編成の実態と問題点を探る。さらに、仮定校の看護基礎教育の教育目的・教育目標を検討し、教育内容の精選、組織化、構造化する能力を養う。また、教育施設の授業(講義・学内演習・臨地実習)に関する指導計画案を作成し、対象学生に実施し、リフレクションを行う。看護基礎教育における演習・実習の重要性を認識し、授業設計と授業評価を行い、教育実践能力を養う。一連の教育実習を通して、自らが看護教育者になる者としての資質、能力と看護教育観を考察する。</p>	
地域生活支援看護学領域	地域生活支援看護学分野	<p>【概要】 コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いた地域看護診断過程を学ぶ。地域看護診断に必要な資料の収集と活用、独自調査(疫学調査)の方法を学ぶ。コミュニティ・アズ・パートナーモデルに基づき、具体的事例を用いて地域看護診断の過程(情報のアセスメント、分析、評価、診断)を学び、理解を深める。 (オムニバス形式 全15回)</p> <p>(⑨：森河 裕子/3回) 地域診断に必要な情報の収集、情報の分析・推論・評価に必要となる疫学の理論と応用、および人口統計などの既存資料の概要や活用法について学ぶ。</p> <p>(⑦：中島 素子/6回) 地域診断の理論(コミュニティ・アズ・パートナーモデル)と診断過程について学ぶ。また、事例検討によりコア情報、サブシステム情報の種類と収集方法について学ぶ。</p> <p>(⑮：櫻井 志保美/4回) 収集した情報の分類、要約、比較、推論、診断の過程を事例検討により学ぶ。</p> <p>(⑦：中島 素子・⑮：櫻井 志保美/1回) (共同) 地域診断の理論(コミュニティ・アズ・パートナーモデル)に基づく地区診断について発表・討議し、地域住民の生活支援について検討する。</p> <p>(⑦：中島 素子・⑨：森河 裕子/1回) (共同) 地域診断の理論と実際を通して、総括的まとめを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 地域生活支援看護学領域 地域生活支援看護学分野	地域医療支援論	<p>【概要】 地域に根ざした地域医療の現状課題、疾患別の地域医療対策・システムについて学修するとともに、へき地における地域医療の実際を体験する。また、地域医療の実現のために必要となる客観的データを基にした地域・住民の特性を把握する方法、多職種や住民との連携・協働の重要性を学ぶ。また、へき地における地域医療の体験をもとに、地域医療における高度看護実践職者・看護研究者・看護教育者としての役割を考察する。 (オムニバス形式 全15回)</p> <p>(⑩：神田 享勉/7回) 地域医療学総論を踏まえ、地域に根ざした疾患別の地域医療対策・システムについて学ぶ。</p> <p>(⑧：前田 修子/6回) 地域医療の現状と制度・体制、地域医療を支える他職種連携、住民との協働とそれらに伴う課題について学び、地域医療における高度看護専門職者・看護研究者・看護教育者としての役割を検討する。</p> <p>(⑦：中島 素子/2回) 地域医療政策の現状と課題について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	地域ケアシステム論	<p>【概要】 地域ケアシステムに関する概念や要素などの基本的知識を習得した後、CBPR(Community based Participatory Research)の手法を用いた地域ケアシステムの展開について学ぶ。また、行政の専門家による保健医療福祉計画策定や地域ケアシステムの構築および展開の実際についての講義から地域ケアシステムに関する考察を深める。次に、地域ケアシステム構築に関する雑誌、文献をまとめ、発表や討論を通して知識・技術を修得する。さらに、何らかの医療や看護、介護を必要とした住民に対する地域ケアシステム構築を展開することで実践的な技術を養う。 (オムニバス形式 全15回)</p> <p>(⑭：浜崎 優子/12回) 地域ケアシステムの概念、地域ケアシステムの発展過程、地域ケアシステム構築のプロセス、および評価・モニタリング手法を学ぶ。また、多機関、多職種、住民との協働によるネットワークの形成と調整活動について学び、地域ケアシステム構築を展開することで実践的技術を養う。</p> <p>(38：横山 壽一/2回) 地域ケアシステム構築に必要な概念・要素、特にソーシャル・キャピタルや地域づくりなどに関する基本的考え方を習得する。</p> <p>(41：垣内 孝子/1回) 地域ケアシステム構築に欠かせない保健医療福祉計画の策定における現状と課題について学ぶ。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 地域生活支援看護学領域 地域生活支援看護学分野	地域健康支援看護学特論	<p>【概要】 ヘルスプロモーションとプライマリヘルスケアの理論を学び、超高齢社会となった我が国の健康課題と健康政策・施策の現状を理解する。効果的な健康支援プログラム策定の基盤として、集団支援のアプローチ法（コミュニティ・アズ・パートナーモデル、プリシード・プロシードモデル）、個別支援の理論（ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージ理論）を学ぶ。また、健康支援プログラムを改善・発展させるために、プログラムの有効性評価の原則と過程を学ぶ。次いで、少子・高齢化、過疎化が進んだ地域住民のライフステージごとの健康課題と現行の健康支援プログラムについて講義、文献検討をもとに学び、課題を検討する。 （オムニバス形式 全15回）</p> <p>（⑨：森河 裕子/6回） 地域の健康レベルを向上させるためのアプローチ理論であるプライマリヘルスケアとヘルスプロモーション、およびヘルスプロモーションにおけるポピュレーション・アプローチ、ハイリスク・アプローチについて学ぶ。また、社会環境の変化に伴う我が国の健康課題の変遷について学ぶ。働く世代の健康課題と健康支援策、特に少子・高齢・過疎地域における中小零細事業所や第三次産業で働く人たちの健康課題と支援について、講義、発表・討論を通じて学ぶ。</p> <p>（⑦：中島 素子/6回） コミュニティ・アズ・パートナーモデル、プリシード・プロシードモデルに基づく地域健康支援プログラム策定過程を学ぶ。また、個人の健康支援における理論（ヘルスビリーフモデル、行動変容モデル）、健康支援プログラムの有効性評価の原則と過程を学ぶ。また若年期からの健康支援、特に少子・高齢・過疎地域における若い世代の健康課題と健康支援の現状と課題について、講義、発表・討論を通じて学ぶ。</p> <p>（⑭：浜崎 優子/2回） 超高齢地域の健康課題、健康支援の現状と課題について講義、発表・討論を通じて学ぶ。</p> <p>（40：茅山 加奈江/1回） 超高齢社会における我が国、地方自治体の健康政策・施策と今後の課題について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	地域健康支援看護学演習	<p>【概要】 地域看護診断学、地域健康支援学特論等の専門科目で学習した内容をもとに、興味のある集団を一つ選定し、看護アセスメント、健康課題解決のためのプログラム作成過程を演習する。支援プログラムの策定は、健康支援に関する国内外の文献の検討・レビュー、プレゼンテーション・討議を経て、科学的根拠があり、かつ地域の特性に即した地域健康支援方法の考察を行った後に行う。また、地域の健康課題の抽出、流行像、原因の探索や、地域健康支援の改善、発展に関連する看護研究を行うための理論と方法について、事例分析も交えて学修し、自らの特別研究への準備を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 地域生活支援看護学領域	生活支援看護学特論	<p>【概要】 地域の生活者である療養者と家族を理解するための理論とその活用方法を学修する。次に、実践現場や研究において活躍している医療・看護・福祉専門職から過疎地域に居住する高齢者の在宅療養を支えるための在宅看護の現状とその課題について講義を受けることで、石川県における在宅療養者とその家族の特徴と生活を支える地域医療・看護の実際について理解を深める。最後に、プレゼンテーションとディスカッションを通して、在宅療養者とその家族がよりよくなるための看護の方法論、生活を支えるための看護職者の役割と展望について探求する。 (オムニバス形式 全15回)</p> <p>(⑧：前田 修子/9回) 地域の生活者である療養者と家族を理解するための理論とその活用方法を学修する。さらに、各理論を用いて個々の看護体験を説明する能力をプレゼンテーション・ディスカッションを行う。</p> <p>(⑩：神田 享勉/1回) 心筋梗塞に焦点をあてて、訪問診療における生活習慣病の予防と改善、早期発見の実際を理解する。</p> <p>(⑪：小林 淳二/2回) 外来診療における生活習慣病の予防と改善、自己管理支援の実際を理解する。</p> <p>(⑬：村角 直子/3回) 糖尿病管理に焦点を当てて、地域の生活者である療養者と家族の特徴と理解につながる理論とその活用方法を学修する。</p>	オムニバス方式
	生活支援看護学演習	<p>【概要】 生活支援看護の特徴、現状・課題を理解した上で、生活支援看護学特論等の専門科目で学習した内容をもとに自分の興味がある援助方法1つを設定し文献検索を行い、取り上げた援助方法の課題と展望について考察・プレゼン・ディスカッションする。さらに、地域医療・看護実践現場における生活支援を目的とした看護研究方法について理解し、生活支援を目的とした看護研究特徴と研究成果の還元方法を理解することで、自らの特別研究への準備状況を整えていく。</p>	
	高齢者支援看護学特論	<p>【概要】 高齢者支援看護学の基本となる理論・概念、研究方法、高齢者保健医療福祉制度・政策について、事例検討や調査等を通して探求し、高齢者支援看護実践能力を養う。 (オムニバス形式 全15回)</p> <p>(⑤：平松 知子/8回) 老年看護学の基本となる理論・概念、および倫理的課題と倫理的調整について学習する。さらに、事例検討等を通して看護実践に活用できる応用力を養い、複雑な健康問題とともに生きている高齢者への接近法を修得する。</p> <p>(⑬：小泉 由美/7回) 老年看護実践に活用できるアプローチ（回想法、タクティールケア、バリデーション、ユマニチュード等）を修得する。また、老年看護分野における文献検索・文献検討を行い、老年看護の課題ならびに課題解決方法を修得する。</p>	オムニバス方式
	高齢者支援看護学演習	<p>【概要】 高齢者支援看護実践に活用されている既存の概念・ツールを活用した技術演習や事例展開を通して、多様な健康状態にある高齢者の理解と看護援助方法について学ぶ。また、論文の批判的吟味と調査・看護実践を通して、高齢者支援看護学における研究の動向と成果の還元、課題ならびに課題解決能力を探求する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 地域生活支援看護学領域	創傷・スキンケア看護学特論	<p>【概要】 創傷の治癒過程を理解したうえで、創傷の中でも日常生活援助技術が影響する褥瘡に焦点を当て、予防と治癒促進に必要な知識を修得する。スキンケアでは、特に専門的な知識を必要とする排泄管理のストーマケアと失禁時のケア方法について修得する。さらに、超高齢化社会に向けて注目されている「皮膚が何かの衝撃で剥離する」スキんテア（皮膚裂傷）についても、予防と管理方法について学修する。 (オムニバス形式 全15回)</p> <p>(④：尾内 千津子/9回) スキンケアでは、特に専門的な知識を必要とする排泄管理のストーマケアと失禁時のケア方法について修得する。さらに、超高齢化社会に向けて注目されている「皮膚が何かの衝撃で剥離する」スキんテア（皮膚裂傷）についても、予防と管理方法について学修する。</p> <p>(⑫：松井 優子/5回) 創傷の治癒過程を理解したうえで、創傷の中でも日常生活援助技術が影響する褥瘡に焦点を当て、予防と治癒促進に必要な知識を修得する。</p> <p>(④：尾内 千津子・⑫：松井 優子/1回) (共同) 創傷の治癒過程を理解したうえで、看護実践上の課題と対策について討論する。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)
	創傷・スキンケア看護学演習	<p>【概要】 皮膚の状態を科学的に評価するために、看護理工学機器の測定原理を理解したうえで皮膚の機能を計測できる技術を修得する。褥瘡という創傷に特化し、国内外のガイドラインを抄読し、エビデンスの収集方法を学修する。さらに、関心のある創傷・スキンケア看護の1皮膚障害に着目し、施設における実態を調査し、ケアの課題を導き出し、Evidence-based nursing (EBP) の手順で研究論文とガイドラインを活用して課題解決策を採求し、臨床適応を検討する。 (オムニバス方式/全30回)</p> <p>(④：尾内 千津子/21回) 創傷の治癒を促進する振動器と医療用テープについての原理を理解したうえで、皮膚及び創傷への影響を学修する。さらに、褥瘡・創傷回診を見学することにより施設における1皮膚障害の実態を調査し、ケアの課題を導き出して解決策を考察する。</p> <p>(⑫：松井 優子/9回) 皮膚の機能と皮膚の機能を計測する機器の測定原理を理解したうえで、皮膚のアセスメントができる技術を修得する。さらに、国内外の褥瘡のガイドラインを抄読し、エビデンスの収集方法を学修する。</p>	オムニバス方式
	精神保健支援看護学特論	<p>【概要】 日本と諸外国における精神医療の歴史的背景、精神保健看護学を採求する際に必要な理論、精神疾患をもつ患者に対する専門的治療とケア、精神疾患の予防や人々の精神の健康増進への支援、連携と倫理的調整のあり方について討議を通して理解を深める。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(③：長谷川 雅美/12回) 精神医療と精神障がい者への対応の変遷、コミュニケーション理論、対人関係理論、ストレス・適応理論、ライフサイクルと精神疾患、地域精神保健看護、コンサルテーション・リエゾン精神看護学、倫理的課題への対応などについて学ぶ。</p> <p>(⑩：田中 浩二/3回) セルフケア理論、精神力動理論、薬物療法と看護について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	精神保健支援看護学演習	<p>【概要】 先駆的な精神保健看護を実践している現場で演習を行う。また、様々な文献から討議することを通して、文献のクリティーク能力やケアの質向上に向けたケア課題の採求能力を修得していく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 高度実践看護学領域 精神看護学分野	精神看護学特論A (歴史・法制度論)	<p>【概要】 精神障がい者に対する対応や精神医療の流れと社会背景について海外と比較しながら、わが国における精神保健、医療、福祉に関する制度や体制の変遷について知識を修得する。今日的背景を踏まえた各種法制度と行政の取り組みや福祉領域との連携を視野に入れた精神医療の動向と今後の課題と方策について探求する。さらに、地域独自の精神医療に対する取り組みについて討議する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(③:長谷川 雅美/9回) 精神保健・医療・福祉と精神障がい者への対応の変遷について、諸外国とわが国の社会的背景を比較・検討し、精神医療、看護のあり方について学ぶ。</p> <p>(⑩:田中 浩二/4回) わが国の事例に基づく法医学的課題、精神科ならびに精神障がい者の課題について学ぶ。</p> <p>(③:長谷川雅美・⑩:田中浩二/2回) (共同) 精神障害者に対する法制度や体制に対する現状とその課題について討議する。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)
	精神看護学特論B (精神看護理論)	<p>【概要】 セルフケア理論、精神力動理論、対人関係理論、ストレス・適応理論について学修し、各理論の特徴を踏まえ、いくつかの理論を応用して事例展開する中で、その特性と課題について討議する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(③:長谷川 雅美/3回) コミュニケーション論概論および理論的思考と実践への応用討論について学ぶ。</p> <p>(39:木村 洋子/4回) 精神力動理論、対人関係理論について学ぶ。</p> <p>(⑩:田中 浩二/5回) セルフケア理論、ストレス・適応理論について学ぶ。</p> <p>(18:長山 豊/3回) 事例展開を通して、セルフケア、集団活動、チーム医療について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	リエゾン精神看護論	<p>【概要】 リエゾン精神看護の機能と役割について歴史的認識を踏まえ、諸活動の実際を理解する。コンサルテーション能力を高める上で必要な理論モデルを理解し、対象や集団に生じる様々な現象に沿った対応能力および医療チームの連携や集団力動における治療的効果の概念と実際を学び、実践への応用力を修得する。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(③:長谷川 雅美/10回) リエゾン精神看護の歴史、機能と役割、医療の場におけるリエゾン精神看護専門看護師の介入の実際などについて学ぶ。</p> <p>(33:野末 聖香/5回) セルフケアの査定、支援方法、対人医療や医療チームでの介入について、検討する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 高度実践看護学領域 精神看護学分野	うつ病看護論	<p>【概要】 精神看護専門看護師として、うつ症状を示すうつ病性障害、双極性障害をはじめとして不安障害、摂食障害などうつ病辺縁領域の精神疾患患者の理解と知識を深め、患者を取り巻く環境も含めた治療的看護介入の実際を事例を通して探求する。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(③：長谷川 雅美/6回) うつ病を取り巻く国内外の状況、ライフサイクルとうつ病、精神療法と看護、地域生活支援、面接技法について学ぶ。</p> <p>(⑩：田中 浩二/3回) 大うつ病の症状と看護、薬物療法と看護について学ぶ。</p> <p>(18：長山 豊/4回) 双極性障害の看護、うつ病辺縁領域の疾患と看護について学ぶ。</p> <p>(③：長谷川雅美・⑩：田中 浩二・18：長山 豊/2回) (共同) うつ症状を示す患者・家族の事例展開を通して、課題と看護を探求する。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)
	精神看護学治療方法論A (精神・身体状態の評価と治療)	<p>【概要】 精神の構造、生理学的変化、精神病理的分析からDSM-5、ICD-10に分類された主たる精神疾患の診断とその治療方法について医学的見地から、看護介入法の査定について教授する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(③：長谷川雅美/2回) 精神医療における治療的看護(診療場面での観察とアセスメント、面接技法)について学ぶ。</p> <p>(26：川崎 康弘/12回) 精神の構造(精神の発達、健全な精神状態について、異常心理、精神疾患、脳の構造、認知機能と障害、各種精神疾患の診断および治療(診断基準と対応)について学ぶ。</p> <p>(③：長谷川 雅美・26：川崎 康弘/1回) (共同) 精神医療における診断についての課題とそれについての討議ができる。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)
	精神看護学治療方法論B (各種療法)	<p>【概要】 精神科治療の中核をなす薬物療法とその他実践されている特殊療法について、その作用や副作用の知識を深めるとともに、代表的な精神療法についての知識を得、演習から高度実践看護師として看護介入に必要な知識を修得する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(③：長谷川 雅美/4回) 薬物療法に対する看護介入演習(拒薬、副作用場面)、服薬指導(家族、当事者)、精神療法演習(認知行動療法、音楽療法)を行う。</p> <p>(26：川崎 康弘/11回) 臨床薬理についての概論、抗精神病薬の薬理と副作用(抗うつ薬・抗不安薬・気分安定薬、睡眠薬、抗てんかん薬)、精神特殊療法、精神療法を学ぶ。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 高度実践看護学領域 精神看護学分野	精神看護学援助技術論A (アセスメント・評価演習)	<p>【概要】 精神科に入院している患者を対象に、主な疾患別の看護アセスメントと現場につなぐコンサルテーション方法について学修する。精神障がい者の社会復帰支援に繋がるコンサルテーションを学び、評価できる能力を修得する。さらに、医療の場で生じるアセスメント上の課題と対応方法について評価する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(③：長谷川 雅美/4回) 臨床における精神問題に関する看護アセスメントの視点を学び、精神的諸問題を持つ対象とのコンサルテーションや精神症状による対応困難(摂食障害症状)な事例の看護について学修する。</p> <p>(⑩：田中 浩二/4回) 患者・看護師関係の事例、精神症状による対応困難(幻覚・妄想症状)な事例の看護並びに長期入院患者の自立支援について学修する。</p> <p>(29：土師 しのぶ/2回) 精神症状による対応困難(発達障害児、発達障害症状)な事例の看護について学修する。</p> <p>(18：長山 豊/5回) 精神症状による対応困難(不安・パニック症状、抑うつ症状)な事例の看護、地域支援に繋げる事例並びに臨床での看護ジレンマへの対応について学修する。</p>	オムニバス方式
	精神看護学援助技術論B (多様な精神看護の介入演習)	<p>【概要】 精神看護相談外来、精神障がい者グループ、精神科訪問看護ステーション、社会復帰施設の見学、チーム医療連携について多職種とディスカッションを通して、さまざまな精神障がい者への対応方法と社会復帰の在り方と精神看護専門看護師として相談役割を学修する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(③：長谷川 雅美/4回) メンタルヘルス看護相談やがん専門看護師の病棟ラウンドの実際を学び、精神看護専門看護師として医療の協働についてのあり方について学修する。</p> <p>(⑩：田中 浩二/4回) チーム医療連携の実際を学び、精神看護専門看護師としての倫理調整について学修する。</p> <p>(18：長山 豊/4回) 精神障がい者当事者グループの活動の見学を通して地域支援について学修する。</p> <p>(39：木村 洋子/3回) 精神科訪問看護ステーションでの演習を通して精神看護専門看護師としての役割と課題について学修する。</p>	オムニバス方式
	精神看護学実習A (役割機能・直接看護実習)	<p>【概要】 精神看護専門看護師の役割機能を認識したうえで、患者への直接ケアを実践する。患者の精神状態やセルフケア機能、自我機能、心理社会的背景などから臨床状況を総合的にアセスメントし、専任教員および精神看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら、入院から退院までのケアプランの作成、実施、評価を行う。</p>	
	精神看護学実習B (診断・治療実習)	<p>【概要】 精神科病棟・外来において、精神疾患患者への精神症状の査定、精神疾患の診断のプロセス、隔離・身体拘束などの行動制限に関する治療環境の設定、薬物療法の組み立て方、治療効果の評価、ケースカンファレンスにおいて、精神科医師の指導を受け、精神科治療のあり方を理解する。 一般病棟で、精神科の専門医および専門看護師のコンサルテーションに同行し、入院中の患者の精神的諸問題に対する治療計画の立案、実施、評価を学び、専門看護師としての看護実践能力を修得する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	精神看護学分野	精神看護学実習C (サブスペシャリティ実習)	<p>【概要】 精神看護専門(サブスペシャリティ)領域に特有な問題をもつ患者を受け持ち、患者の精神状態やセルフケア機能、社会心理的背景などを総合的にアセスメントし、専任教員および精神看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら、ケアプランの作成、実施、評価を行う。また精神科リエゾンチームやメンタル看護相談外来における治療的看護実践を通して、今後精神看護の専門性をいかに開発するかを探求する。</p>	
		精神看護学実習D (相談調整実習)	<p>【概要】 精神看護専門看護師の組織内での相談・調整活動のあり方について理解する。病棟カンファレンス、医療チーム間のカンファレンスに参加し、テーマとなった事例について、患者・家族の精神状態と自我機能、人格機能、セルフケア機能を査定した上で、患者・家族間あるいは患者・看護師間の力動、医療チームの集団力動をアセスメントする。そして、精神科病棟あるいは一般病棟において、コンサルテーションが必要なケースを抽出し、事例および事例を取り巻く状況をアセスメントした上で、医療チームに対してコンサルテーションを実施する。</p>	
	高度実践看護学領域	クリティカルケア看護学特論A (危機とストレス管理)	<p>【概要】 衝撃的な体験をしている患者および家族を理解するために、ストレス理論、対処理論、危機理論、Body image、障害受容過程の理論を基本として学修する。理論の活用方法は、文献抄読にて理論的根拠に基づく実践的なクリティカルケア看護のあり方について患者と家族の視点から考察し、かつ自己の看護体験をも振り返ることで理解を深める。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(㊸:佐藤 芙佐子/6回) 衝撃的な体験をしている患者および家族を理解するために、ストレス理論、対処理論、危機理論、Body image、障害受容過程の理論を学修する。</p> <p>(/9回) 理論の活用方法について教授し、文献抄読にて理論的根拠に基づく実践的なクリティカルケア看護のあり方について患者と家族の視点から考察し、かつ自己の看護体験をも振り返ることで理解を深める。</p>	オムニバス方式
			クリティカルケア看護学特論B (代謝病態生理)	<p>【概要】 クリティカルケア領域における看護の専門性を発揮するためには、病態生理の理解が重要であるという思考を基盤に置きながら、全身管理を実施するために必要な身体侵襲と生体反応、侵襲が全身に及ぼす影響、体液、免疫、循環、糖代謝、多臓器不全、呼吸器不全、脳神経異常について学修する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④:尾内 千津子/6回) クリティカルケア領域における看護の専門性を発揮するためには、病態生理の理解が重要であるという思考を基盤に置きながら、まず全身管理の方法として身体侵襲と生体反応、侵襲が全身に及ぼす影響、全身管理としての免疫反応、脳神経異常について学修する。</p> <p>(⑩:村角 直子/2回) 全身管理の方法としての体液管理(腎不全、浮腫)、糖代謝について学修する。</p> <p>(37:大桑 麻由美/2回) 全身管理の方法としての循環管理(心不全、末梢循環不全)について学修する。</p> <p>(21:岩井 邦充/5回) ショックの病態、全身管理の方法としての体液管理(脱水、電解質異常、酸塩基平衡障害)、多臓器不全、呼吸器不全について学修する。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 高度実践看護学領域	クリティカルケア看護学特論C (急性・重症患者管理論)	<p>【概要】 急性・重症患者の特徴的な治療法として、麻酔、補助循環、経皮的冠動脈インターベンション、低体温療法、人工呼吸器、透析、移植、開放創、熱傷の管理方法を学修し、事例にて管理方法の理解を深める。さらに、自己の関心領域にてEvidence-Based Practice (EBP) の手順を理解し、根拠あるケア方法の導き出し方を修得する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(16: 村角 直子/1回) 急性・重症患者の特徴的な治療法として、透析療法と管理方法について学修する。</p> <p>() /5回 クリティカルケア看護における診断治療の特徴、及び急性・重症患者の特徴的な治療法として、麻酔、低体温療法、移植とその管理方法、開放創と陰圧閉鎖療法、熱傷患者の水分・栄養・創傷管理について学修する。</p> <p>(21: 岩井 邦充/3回) 急性・重症患者の特徴的な治療法として、経皮的冠動脈インターベンション、人工呼吸器と管理方法について学修する。</p> <p>(37: 大桑 麻由美 1/回) 急性・重症患者の特徴的な治療法として、補助循環の管理方法について学修する。</p> <p>(29: 南條 裕子5/回) クリティカルケア看護における診断治療の特徴、及び急性・重症患者の特徴的な治療法として、開放創と陰圧閉鎖療法、熱傷患者の水分・栄養・創傷管理について学修する。さらに、急性・重症患者の看護管理にかかる自己の関心領域の課題についてEBPの手順を理解し、根拠あるケア方法を導き出すための討論ができる。</p>	オムニバス方式
	クリティカルケア看護学特論D (援助的人間関係論)	<p>【概要】 クリティカルな状況にある患者、ならびにその家族との人間関係を発展させるために必要な人間関係理論と家族理論を学修し、看護援助について人間関係的側面から理解する。実践力を養うために、国内外の文献抄読から理論的根拠に基づく実践的なクリティカルケア看護分野における家族看護について考察し、かつ自己の看護体験からどのように適用するのをも理解する。さらに、クリティカルな状態にある患者のアセスメントと看護を学修し、医師や看護師等の医療者とも協働して、患者・家族に看護援助するための調整力についても理解する。</p>	
	クリティカルケア看護学演習A (アセスメント・援助論)	<p>【概要】 クリティカルな状況にある患者と家族のトータルペインとその看護については、鎮痛・鎮静管理を理解したうえで、国内外の文献抄読から理論的根拠に基づく実践的な看護援助を導き出し、どのように適用するの的理解を深める。</p>	
	クリティカルケア看護学演習B (倫理調整)	<p>【概要】 インフォームド・コンセントの概念や患者権利擁護 (アドボガシー)、倫理的課題、コンサルテーションについて理解をした上で、クリティカルケア看護における医療者の役割と責務について、救急、集中治療、周手術期の中で希望する分野のフィールドワークを通して学修する。さらに、生命危機状況における治療方針の意思決定プロセスに関与する看護のあり方も学修する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(28: 佐藤 芙佐子/6回) インフォームド・コンセントの概念や患者権利擁護、倫理的課題と対応、コンサルテーションについて学修する。さらに、クリティカルケア看護分野における倫理調整のために必要なグリーフケア・スピリチュアルケアと、治療方針の意思決定プロセスに関与する看護のあり方を学修する。</p> <p>() /9回 フィールドワークにて患者・家族に関する倫理的課題を抽出し、看護体験を倫理的な視点から振り返り、かつディベートを行うことで倫理的思考にて倫理調整を考察できる能力を養う。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 高度実践看護学領域 クリティカルケア看護学分野	クリティカルケア看護学演習C (救急看護論)	【概要】 クリティカルケア領域におけるサブスペシャリティである救急看護分野の対象患者の病態生理、フィジカルアセスメント、疾患と治療をより専門的に理解できる能力を修得するために、学修する。さらに、その分野の患者と家族に対して、倫理的視点をも含めて最適な援助を決定する能力を養う。 (オムニバス方式/全15回) (⑩：村角直子/1回) 糖尿病ケトアシドーシスについて学修する。 (/10回) 災害看護、トリアージ、急性呼吸窮迫症候群、くも膜下出血、急性腹症、ショック、薬物中毒について、援助を含めて学修する。さらに、救急システムについて学修後、患者と家族に対する看護援助について考慮すべき倫理的視点について検討する。 (⑨：南條 裕子/4回) 急性腹症の初療時のアセスメントと援助について学修する。急性冠症候群、外傷、熱傷について、援助を含めて学修する。	オムニバス方式
	クリティカルケア看護学実習A (急性・重症患者包括的看護実践)	【概要】 クリティカルな状態にある患者とその家族に関連する理論や介入モデルを活用して最適な看護過程を展開し、創造的な看護実践を行うことにより実践能力を養う。実践したケア内容については、専門看護師として適切な臨床判断や実践が行えているのかを考察し、かつこれらの体験を通して専門能力を高めるための自己課題を導き出し、コンピテンシーを養う。	
	クリティカルケア看護学実習B (チーム医療実践)	【概要】 クリティカルケア領域におけるサブスペシャリティである救命・救急看護、集中治療看護、周手術期看護の1分野から選定し、専門看護師としてその分野のクリティカルな状態にある患者とその家族の複雑な健康問題を解決するための教育的役割機能の看護実践力を養う。その役割機能を高めるために、専門的な知識を応用しながら看護展開を行い、かつ患者とその家族が抱える問題の解決過程で関わる全スタッフおよび他職種に教育を行いながら、共同して問題解決を図る能力を養う。	
	クリティカルケア看護学実習C (組織包括的看護実践)	【概要】 組織を俯瞰して課題を抽出して教育的役割機能も果たしながら介入し、研究的手法等も取り入れながら実践を評価することで、クリティカルケア看護の専門看護師として求められる能力のうち特に教育、倫理調整、コーディネーション能力を養う。さらに、関連分野の相談を実際に受け、理論・介入モデルを活用しながら実践し、コンサルテーション能力を養う。管理力を高めることも考慮しながら、個々の対象のみでなく、集団に必要な教育ニーズを把握し、インサービスを実施し評価することで、集団に対する教育能力も養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	特別研究	<p>【概要】 看護教育、地域医療・看護現場における課題に関する研究課題を見つけ、修士論文を作成することで、看護教育の質向上と発展、地域医療・看護の発展に貢献できる研究マインドを修得する。</p> <p>(①：滝内 隆子) 看護基礎教育及び看護継続教育における効果的・効率的な教育方法、教育内容、教材開発、また、看護専門職として看護実践能力を育成するための効果的な教育プログラムの開発さらに看護歴史に関する課題等について研究指導を行う。</p> <p>(②：坂井 恵子) 看護教員のストレス要因の測定や看護基礎教育の教育方法、教育システム、また、看護技術に関する基礎的研究や看護教育者の能力に関する研究指導を行う。</p> <p>(③：長谷川 雅美) 精神保健、精神医療に関する今日的テーマについて看護の視点から探求し、精神的諸問題を抱えた対象に沿ったオリジナリティの高い修士論文の作成に関する研究指導を行う。</p> <p>(④：尾内 千津子) 医療施設から在宅等の様々な場における、褥瘡等やおむつ皮膚炎、ストーマケア等のスキンケア看護に関する様々な要因分析、アセスメント方法およびツールの作成、ケア方法の開発、介入評価について研究指導を行う。</p> <p>(⑤：平松 知子) 高齢者の理解と健康支援（当事者・家族の体験、転倒予防に対するセルフケアサポートプログラムの開発、等）、老年看護実践能力育成（評価指標の開発、等）に関する研究の修士論文作成指導を行う。</p> <p>(⑥：柳原 真知子) 助産師の教育史・教育観の研究に関する検証、女性のリプロダクティブ・ヘルスの保持・増進を図るためのケアに関する研究などについて、各自の研究テーマに沿って研究指導を行う。</p> <p>(⑦：中島 素子) 生活習慣病は健康長寿の最大の阻害要因である。労働者における睡眠習慣、喫煙習慣などに焦点を当て、生活習慣と健康との関連を明確化し健康課題を抽出し、健康レベル向上のための効果的支援方法の開発について研究指導を行う。</p> <p>(⑧：前田 修子) 地域で生活する療養者と家族、特に高齢者の健康や生活環境の維持増進を図るための、療養者と家族へ援助方法開発（感染管理、膀胱留置カテーテル管理、医療・衛生材料供給システム）や訪問看護師への教育プログラム開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(⑨：森河 裕子) 地域健康支援に必要な地域の特性の把握・評価、あるいは健康阻害要因や健康増進要因を把握するための記述・観察疫学研究を行う能力、また地域の健康レベル向上目標達成のための効果的支援方法の介入研究指導を行う。</p> <p>(⑩：神田 享勉) 地域で生活する療養者と家族、特に過疎地域で生活する高齢者の健康や生活環境の維持増進を図るための、在宅医療の実際と課題分析、医師と看護職の効果的な連携、在宅医療を効果的に提供できるための地域ケアシステム構築についての研究指導を行う。</p> <p>(⑪：小林 淳二) 生活習慣病（脂質異常症、糖尿病）の成因、診断、治療、予後、予防ならびに、治療や予防における看護職としてのアプローチに関する研究指導を行う。</p> <p>(⑫：松井 優子) 創傷をはじめとする皮膚障害のアセスメント技術や効果的なケア技術の開発、あるいは悪性腫瘍の周手術期における化学療法などの侵襲に対するアセスメント技術や効果的なケア技術の開発についての研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	特別研究	<p>(⑬：小泉 由美) 高齢者とその家族を対象に高齢者の健康や生活機能の維持増進、認知症予防のための老年看護学の専門知識・技術の向上や、認知症緩和ケアや認知症高齢者の介護負担の軽減に関する効果的な介入プログラムの開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(⑭：浜崎 優子) 地域在住の高齢者のセルフネグレストやこれらの健康課題の分布、要因を探る量的データ分析および高齢者やその援助者に焦点を当てた質的データ分析について研究指導を行う。また、在宅難病患者の生活の質の向上を図るため、患者やその家族のニーズ抽出と施策検討のための研究指導を行う。</p> <p>(⑮：櫻井 志保美) 地域のケアを担う家族の支援、家族介護者支援に関する課題分析、および家族支援策の開発と効果評価について研究指導を行う。</p> <p>(⑯：村角直子) 糖尿病看護の対象者における生活の質（QOL）および行動や意識の面などの要因を質的・量的な視点から分析、糖尿病看護のケア方法の開発についての研究指導を行う。</p> <p>(⑰：田中 浩二) 精神に病いをもつ当事者と家族の生活世界に根ざした体験の解明、当事者と看護師の相互作用の中で展開する治療的看護ケアの考案などを通して、臨床あるいは地域における精神看護技術の向上やケアプログラムの開発についての研究指導を行う。</p>	
	課題研究	<p>【概要】 実習科目における体験をもとに、各専門分野（精神看護学、クリティカルケア看護学）の研究課題を設定し、事例研究やフィールドワークによる調査研究を行い、課題研究論文を作成することで、特定分野における高度看護専門職者として各専門分野の看護実践上の課題解決能力を修得する。</p>	